

日本心理学会第66回大会 ワークショップ「スピーチにおける感性情報-3-」

[研究概要]

演題(1):「音声の中の実発声時間・休止時間の配分量と話者の性格印象・自然性・わかりやすさ」

所属:独立行政法人 大学入試センター 研究開発部 試験環境研究部門

氏名:内田照久

[背景]

円滑な音声コミュニケーションを図るには、話す相手の人柄を推し量ることが必要である。しかし、電話などの音声のみを媒体としたコミュニケーションでは、対人認知の主要な情報源である顔の表情や容姿などの情報が付随しない。この音声から想起される話者のパーソナリティ印象には、一般にどのような特徴があるのだろうか。ここで音声の音響的な性質の操作によって、話者の性格印象の情報がどのように変容するのかを記述できれば、音声による印象形成のあり方を探る手がかりになると考えられる。

さて、音声の音響的特徴と話者の性格印象との関連性が明らかになれば、用途や場面に応じた性格印象を備えた合成音声を生成するための手がかりを提供し得る。さらに、より自然でわかりやすい音声の生成には、人間による主観評価が必須であり、今回は、音声の時間構造の側面から、音声の自然性についても検討を試みる。

[目的]

音声の音響的特徴と話者の性格印象、及び発話音声の自然性との関連性の記述
用途や場面に応じたパーソナリティ情報を備えた合成音声の生成方法の提案

[内容]

- (1) 単文レベルの音声の基本周波数・発話速度と話者の性格印象の関係モデル
- (2) 発話速度の異なる音声の中の実音声・休止時間の配分量と自然性との関係
- (3) 連続音声の中の実音声・休止時間の配分量と話者の性格印象との関係
- (4) 音声コーパス・データベースを用いた音声の主観評価に基づく研究の紹介

[課題]

- [1] 音声の音響特性に加え、発話内容そのものの影響も加味した分析
- [2] 実験操作によらない現実のリアルな音声によるモデルの検証
- [3] 単独音声に留まらない対話場面での相互作用の影響の検討

[文献]

- 内田照久 2002 音声の発話速度が話者の性格印象に与える影響 心理学研究, 73 (2), 131-139.
内田照久 2002 基本周波数および発話速度の変換が話者のパーソナリティ印象に与える影響
日本音響学会 2002 年春季研究発表会講演論文集, 417-418.
Uchida, T. 2001 Effects of the speech rate on speakers' personality-trait impressions.
Proceedings of the 17th International Congress on Acoustics, Vol. IV (Speech) [CD-ROM],
5B-17-02.
内田照久 2000 音声の発話速度の制御がピッチ感および話者の性格印象に与える影響 日本
音響学会誌, 56 (6), 396-405.

[連絡先] E-mail: uchida@rd.dnc.ac.jp
